

なすの訪問看護ステーション

那須塩原市緑1丁目8番43号

医療保険：3割
介護保険：7割

課長 大塚知雅様
管理者 小林未来様

施設アピール

我々の世代が我々の力と新しいシステムで在宅介護を変える
私たちの思いは、「常に感謝し」、「常に尊敬」し、「常に学習」し、「常にチャレンジ」していく心を持ち地域住民、地域社会の発展に寄与できる行動をとることです。
社名にある「ワンオアエイト」の意味は、その名の通り「一か八か」です。職員それぞれが日々多くの挑戦をし続けています。

施設の役割や特徴

4つの事業所（居宅介護支援、訪問看護、訪問介護、訪問入浴介護）があり、他職種の連携がとりやすく、必要なサービスが、必要な時に利用できるというつながりやすさが特徴です。

県央の上三川にサテライト（3名常駐）ができ、登録地域はありますが、地域や場所を選ばず対応ができます。手をさしのべた方には、その手を振り払わず、どこまでもサービスをお届けします。

例えば、リハビリで介入しても、必要があれば訪問看護、訪問介護を利用し、支援していくことができます。

スタッフは、看護師6名、PT・OT・ST9名の15名体制で支援しています。リハビリ対応が多く、市外では、那須烏山市・茂木町・益子町の利用者がいます。

連携している主な医療機関

那須赤十字病院、国際医療福祉大学病院、那須南病院、利用者の主治医の開業医等、地域の医師会と連携しています。



ケアマネジャーとの連携

連携は問題なく取れています。利用者に何か状況の変化がある場合は、こまめに連絡を入れて、その状況を確認し、記録として残しています。

医療保険対象者であっても、訪問看護計画書と評価表を提出し情報共有をしています。訪問看護や訪問リハビリの必要性の理解につながっていると思います。

また、毎月のケアマネジャーからの提供票について、提供時間の変更になったが修正されていないことが稀にあります。適切なサービス提供のため、一言あるといいですね。

他の訪問看護ステーションとの連携として、「どこでも連絡帳（ドコレン）」を活用し、ケアマネジャーとは、計画書（書面）で連携を図っています。

快く訪問インタビューに応じていただきました。社訓の通り、篤い心を感じられるようなお話でした。

お二人の話から、訪問看護の支えとともに、住み慣れた地域で、この家で、最期まで安心して暮らしていけると感じました。

テーブルに生けられた
ぺんぺん草
何気ない日常
を感じます



ケアマネジャーにお願い

○まずは、一番に話しやすい
ケアマネジャーであること。
○こまめに、連絡をし、連携をとって欲しいこと。

コロナ過で・・・

人と接することに不安を感じる利用者が多く、一時期キャンセルがありました。

全職員に看護師がマスク着用、グループ、フェイスシールド利用、カウンテックニック等の指導を社内SNSで実施しました。訪問車は、毎回消毒をしました。また、事務所内を各業務ごとにゾーンで分けました。

全職員に情報提供をし、共有することで、利用者も職員も安心安全が守れると思います。



感染対策をした事務室、連絡も短的に済みます。

印象に残った事例

筋萎縮性側索硬化症の方を、長く支援をさせて頂いていました。訪問看護師よりハビリ職による訪問、訪問入浴サービス、訪問介護サービスと弊社併設事業所を多く利用していただき、全人的な支援を会社全体でさせて頂いていました。

そのような中で肺癌を発症し、転移もみられました。積極的な治療については、ご本人の体力面への配慮と意向を尊重し、延命治療はしない方針となりました。

病状の進行は早く、様々な症状が出てきた頃、ご本人に何をしたいか尋ねると、「旅行に行きたい」と仰いました。以前から旅行が好きだったようです。

そこで、社内でプロジェクトチームを発足し、旅行に連れていく計画を立てました。

その当時の病状としては、寝たきりで自力で身体を動かすことは不可、急変の可能性あり、人工呼吸器管理、気切から頻繁に吸引が必要な状態であり、旅行に連れていくことは容易ではありませんでした。当日までの準備に関しては、対応してくださる宿泊先や移動手段の手配、緊急時の受け入れ先の確保、エアマットなど福祉用具の準備、人工呼吸器や酸素の予備確保など多くの準備が必要でした。

もちろん主治医との連携も重要

ですが、皆様快く協力してくださいました。

そして、多くの方に支えられて、無事に一泊旅行に行くことができました。娘様や息子様もいらっしやり、家族旅行の思い出をつくるお手伝いをさせて頂いていただくことができました。

その後、ご本人から「みなに世話になり、ありがとう。毎日天井だけしか見られず、朝起きると、今日もテレビと天井か・・・の毎日です。楽しかった、ありがとう。」との言葉をいただきました。

プロジェクト第2弾も計画しましたが、こちらは旅行前日に状態変化があり、入院となってしまい実現できませんでした。

しかし、ご本人が奥様にラブレターを渡したいというご希望は叶えて差し上げることができました。

最期もご自宅で、ご家族に見守られながら、穏やかに過ごすことができ、弊社職員も一緒にその時間を共有し、多くの学びを得ることができました。

この事例を通して、在宅生活支援は、多くの関係機関の皆様協力、支えがあっただけで成り立つのだと実感しました。

すべての人に感謝しながら、訪問看護師として、地域に貢献できるように努めていきたいと思えます。

玄関先の草花、事業所の看板、ドアに貼られたパンダ達がまず、目を引きまます。

道路から奥まったところに構えてあるためか、豆記者は気づきませんでした。

これからは、場所も、顔も見えたので、訪問させていただきたいと思えます。

パンダちゃん♥
また来ますね。

